

和論語

鎌倉時代の清原良業によることになっているが、怪しげな書ではある。一六六九（寛文九）年刊（埜田弥兵衛）によって広まったので、この時期には世間でそれぞれに内容が受用されたと思われる。顕光寺別当の乗因の「戸隠山大権現縁起」にも引用されている。

戸隠大明神と託 信乃国

もろくくの人の有相うさうの鏡がゝみにむかへるが如くごとかくる
事なく清きよく清かる心をもて吾神明わがしんめいのおきて
を守れがゝみのちりを払はずしてすがたの
直なをき事なをしる事ななしおもひをひとしくして
あめつちを師しとせよ

註「がゝみ」は「かゞみ」（鏡）カ

註 国文学研究資料館データベース掲載の酒田市立光

岡文庫蔵本 (DOI 10.20730/100131095

）二七〇マ目。